

### 第3回 2020 東京オリンピック・パラリンピックとやま戦略会議（概要）

日時：平成 29 年 3 月 10 日（金）10:00～11:30

場所：県庁 4 階大会議室

- 1 開 会
- 2 知事挨拶
- 3 協 議

アドバイザー

県においては、選手、ジュニアも含めて、幅広く決め細やかに支援をされ、それがいい成果につながっていることは、本当に喜ばしいことだと思う。スポーツ環境の整備、施設についても、丁寧に整備を積み重ねておられることで、本当にいい流れができていていると感じている。

ちょうど、平昌オリンピックの1年前イベントが2月9日に開催され、私も、平昌に見に行った。会場や施設整備は、ほぼ終わっており、いよいよ本格的な準備を重ね、1年後のオリンピック・パラリンピックに向けて、平昌も頑張っている状況を拝見してきた。

先ほどの知事の挨拶でも、冬季ユニバーシアードで、選手の方々が活躍されている状況を伺った。ぜひ平昌に出場して、素晴らしい成績につなげていただければと思う。

2020年のオリンピック・パラリンピックについても、リオデジャネイロオリンピックが終わり、来年が平昌で、いよいよ本格的な準備がスタートし始めたところである。

既に、聖火リレーの検討会議が、具体的な聖火リレーのビジョンを考えようということがスタートしている。来週に、東京大会での飲食・食事の提供を、どういう風に進めていくのかという会議も動き出す予定である。4月には開会式・閉会式の式典委員会も立ち上がる予定で、東京大会に向け、本格的な準備も、今、積み重ねているところである。

1枚目のところで、これまでの意見を集約して整理していただいているが、少し補足すると、1ページ目の右側のアクション&レガシープランの中でオリンピック・パラリンピック教育を掲げている。オリンピック・パラリンピック教育の関係では、東京都で小学校、中学校、高校が良い教材を作り上げており、それを全国の学校でも活用いただくということで、組織委員会のホームページからダウンロードすることができるようになっている。

もうひとつが、新しい話として、国際パラリンピック委員会に、日本向けの教材を日本語版で作成をいただいた。パラリンピック教育に関する教材も、まもなく組織委員会のホームページからダウンロードできるようになる。

5ページ目の参画プログラムのところでは、教育「ようい、ドン！スクール」という形で、オリンピック教育・パラリンピック教育を行う学校に対し、組織委員会がオリンピック教育・パラリンピック教育認証校という認証を行い、パラリンピック教育・オリンピッ

ク教育の推進を後押しする取り組みも始まっているので、富山県の学校においても、できるだけ先ほどの教材を活用していただいたり、県独自の教材を作成いただいて、オリンピック教育・パラリンピック教育をぜひ、小中学校を中心に進めていただければありがたい。

参画プログラムの中の文化的プログラムについては、ロンドンの場合、12万件近くを4年間で積み上げて、オリンピック・パラリンピックと同様に、文化オリンピアドということも、非常に国をあげた盛り上がりにつながったいいモデルになっている。東京大会でもこの文化オリンピアドが、既に昨年の10月リオ大会以後に動き出している。

全国展開は、今年の7月ぐらいからは、きめ細やかな取り組みを認証させていただき、応援プログラムという形で、ロゴマークがついていない右側の応援プログラムのロゴマークを差し上げ、いろんなポスターなどPRの際に、オリンピック・パラリンピックという言葉も使えるように、広がりを持って取り組んでいただく流れができていますので、ぜひご活用いただきたい。

それから、パラスポーツの体験を支援する予算があったが、私ども組織委員会でも、ボッチャクラブを作り、今はスポンサー企業の方々のボッチャチーム、あるいは東京都のボッチャチームと対戦会を始めたところである。そういった意味では、ボッチャの普及にもつながるし、大会での応援にもつながる、そんな流れを作ろうとしているので、ぜひ、県庁や学校、特に特別支援学校でも、ボッチャチームを作っていただくような流れで、パラリンピックの競技に対する認知度を高めるという地道な流れも、予算を活用してやっていただきたい。

ボッチャを体験してみると、中高年齢層の方々に、日頃、なかなか運動機会のない方でも、結構、奥の深いスポーツだということが体験して分かっていただけた。そういった面で、ボッチャをはじめブラインドサッカーとか車椅子バスケットとか、いろんな形で体験的な切り口でパラスポーツに入り込んでいただけるとありがたい。

話がバラバラになって恐縮だが、昨日、スポンサー企業で食を担当する方々と話をしていた、「日本の選手村などで和食を提供することも大きなテーマであるが、科学的な意味での栄養学をきっちり研究して、アスリートの支援、アスリートの体調管理のみならず、より当該スポーツにふさわしい栄養を選手が身に付ける取り組みを、2020年の大会を機会にできるといいのではないか」という話があった。今日も大学の先生方がおられるが、強化・選手サポートの中に、大学と連携して、栄養も取り入れられるといい成果につながるのではないかと話もさせていただいた。

それから、5ページ目の聖火リレーの検討会がスタートしたところである。1番下に、今後のスケジュールがあるが、現在は、オリンピック聖火リレーのビジョンとかコンセプトを取りまとめる作業がスタートしたところである。今年の夏には、国際オリンピック委員会に、そのコンセプト案を提出する予定で、来年の2月には、国際パラリンピック委員会にコンセプト案を提示する予定である。それぞれのビジョンとか考え方が、国際オリンピック委員会、国際パラリンピック委員会に了解されると、具体的な大きなルート案を固

めて、それぞれ具体的な、県内でどのようなルートを通して走るかなどを、県の方と相談するという流れになる。

2018～2019年にかけて、具体的なルートをどうするのか、どのような方に走っていただくかといったことを、県庁と相談しながら固めていく作業が始まるので、その際には、県庁のご協力をお願いしたい。

#### アドバイザー

選手の強化について話させていただく。事前合宿あるいはオリンピック直前合宿を、各地方都市、県から要請を受けている。だいたい、200数十箇所から陳情を受けていると聞いている。もちろん、富山県、この間は高岡市からも要請を受けている。

もう既に、レスリングは今年の春、3月～4月に5～6カ国が日本に来日し、合宿が始まる。東京都内のナショナルトレセンでスタートするが、そのチームを地方に持って行って練習するということもできる。したがって、合宿に呼ぶのはオリンピックチームなのか選手なのか。事前合宿は、オリンピックが8月に開催するので、7月に呼ぶのはなかなか難しい点がある。というのは、オリンピックの直前まで選手は決まらない。あるいはチームが決まらないという事例があるので、なかなか事前合宿は難しい。

そこで、各国のオリンピック候補チーム、または、候補選手を1年前2年前に呼ぶ合宿だと、各競技団体もやりやすい。オリンピック選手そのものを呼ぶとなると、オリンピック予選があるため、8月直前まで選手が決まらないので、各国は選手を出しにくい。もし呼ぶとするなら、1年前とか2年前にオリンピック候補チームを呼んで、県内の選手と交流・合宿するという形であれば、非常にやりやすく、そういうことも考えて交流をされたいと思う。

また、富山県の選手で、オリンピックの候補選手が何人かいる。リオでは、2人の金メダリストを出した。特に柔道やレスリングには、良い選手がいる。今、資料にあがっている選手達の強化を、しっかりと行う重点強化をやっていく必要がある。所属先やコーチ達、この辺と連携してやれば、本番も間に合うのではないかなと思っている。若い選手で伸びてきている選手もいるので、専門的なトレーニングを、あるいは専門的なコーチをつけることによって、本番の選手になれると思う。

・誘致あるいは本県選手の活躍、スポーツ環境整備について議論をしようということになっているが、とりあえず招致・誘致活動のところについて、先般、日本バレーボール協会、組織委員会のほうにお願いに行ってきた。我々とすれば、今、どのように取り組んだら一番よいかを検討している。

今ほど、福田JOC委員からも話があったように、バレーボール競技も直前まで出場国が決定しない難しい状況もあり、具体的なチームの名前は差し控えさせていただくが、可能性が高いチームに、既にコンタクトとっているが、非常に難しい要因がたくさんある。

前年の2019年に、ワールドカップを日本で開催することが決まっているので、その時を利用しながら、1~2年前から全日本ナショナルチームを呼んだりしながら、少しずつ機運を盛り上げていきたい。

本県選手の活躍について、これは一般論であるが、昨年度のリオオリンピックでの活躍は、富山県の関係者にとっても非常に大きな元気を与えていただいた。

ぜひ、東京オリンピックでは、メダリストがぜひ出るように、いろんな面で、支援をしていくことが非常に重要であり、これについては既に取り組みされているので、それをさらに進めていただきたい。

・TOYAMA アスリートマルチサポートは、知事が話されたように、物心両面の整備・事業を進めていただいている。

アスリートのサポート対象者は、その前までは600人、去年からは800人、今年も800人、子供から大人までの全てを含めた人数をサポートしているが、オリンピック・パラリンピックに出場できるのは、その中のごく一部になるので、一般的な支援とは異なる、特に凝縮した支援をお願いしたい。

もう一つ、富山県の合宿誘致に向けた状況は、世界のトップや金メダルを取るようなチームを念頭に置いた誘致合戦であると思う。

しかし、世界から東京オリンピックに来るのは、発展途上国からもたくさん来日する。また、パラリンピックに関しては、学校教育とセットで進めていくと先ほど説明があったが、東京オリンピックのレガシーの中には、文化遺産としても念頭にあるという事なので、富山県らしい合宿誘致バージョンも今後検討していただきたい。

・2ページ目の右下のスポーツを支える人材の育成・養成および活用の欄で、スポーツエキスパート活用推進事業の拡充については、私は大賛成の立場で意見を述べさせていただきます。

最近、県外で、外部指導者による問題も聞かれる。運用の面や募集の面で、ケアをしておかなければいけない。外部指導者がどういう指導者なのかを見極める能力が、かなり求められると思う。どんな人なのか、学校側として、どこと連携すればいい人材と巡り会うのか、といったシステムの構築が求められるところが1つ懸念としてあると思う。

それと学校部活動は、あくまで学習指導要領の中で、教育の一環で教育課程との関連を求められるものであるから、教員が丸々外部指導者に、丸投げすることがないように心が

けなければいけない。これも含めて、外部指導者を採用する基準をあまり固めると、なかなか良い人材の活用ができないジレンマに陥ると思うが、日本体育協会の指導者資格や各種競技団体の指導者資格の有資格者を採用基準として設けるなど、いろんな整理をして有効な事業になることを祈念している。

・オリンピックの事前合宿について、競泳の情報を紹介したい。金沢市では、外資系一流ホテルの開業時期に合わせて誘致をしている。フィットネスルームの要望も聞きながら、ヨーロッパの大国が内定していると聞いている。

また、北信越地域のある都市は、5都市と競合し、水泳の強豪国が決定したと聞いている。決め手となったのは宿舎である。また、行政当局の人脈も生かされたことも聞いている。こういうことを考えると、競技施設以外の条件が非常に重要であることがうかがわれる。そうすると、現時点では、都道府県競技団体レベルで対応することは、なかなか厳しい状況である。

次に競技力向上についてであるが、分散的な強化ではなく、重点的な強化が必要であり、的を絞って進めることが重要である。東京五輪に向けた強化ということで、この機会にスポーツの強化事業の充実を図ることも1つのやり方だと思う。これは、東京五輪の選手はもちろんだが、その後の富山県のスポーツ界にも種をまくことができると思う。ある県では、何千万円という単位での強化費をあてている。富山県はそうではなく、富山県らしい強化策を立てていけばよいと思う。

最後に、この機会に各競技団体のホームページの充実について研修があればと思う。更新の時期が来ており、新しい取り組みが必要だと思う。IT時代にアナログ的な発想の転換をしていく良い時期だと思う。そのことが選手育成につながっていくと考える。

・ドクターの立場からすると、医科学的な面からマルチサポートを行っているが、その内容の充実については、賛否両論があるかもしれないが、ある程度、競技種目のターゲットを絞っていくほうが、より効果が上がるのではないかと思う。

それから、競技現場にトレーナーを派遣し、コーチと連携してコンディショニングを行うことは、明らかにその選手の成績は上がると実感している。しかし、現状では、マンパワーがやはり不足しているので、民間のスポーツ指導員とかトレーナーの資格を持った理学療法士、あるいは富山大学、あるいは近隣の大学のスポーツ系講座のスタッフ等を動員して、トレーナーバンクみたいなモノを創設して指導していけば良いと思っている。

また、各競技団体においては、ジュニアにおける活動は、中学校・高校単位の部活動が中心になっているが、現状では、優れた指導者がいる学校が拠点になっている。そういったところに、国内のトップレベルで活躍した人を、これまでも何回も発言があったが、セ

カンドキャリアの観点から、もっと積極的に職員として採用して、拠点を増やしていく必要があると思う。

それから障害者スポーツの話だが、現在、障害者スポーツの中心は、富山県を見ると、特別支援学校が中心となっている。現状では、まだまだ脆弱な面もあり、指導者の育成が急務であると感じている。

また、障害者が利用できるスポーツ施設が、現在、富山県の場合、まだ少ないと思う。例えば床が傷つくからという理由で、車いすの使えない体育館があるとか、あるいは、障害者はトイレの問題がクリアされないとなかなかスポーツ活動が困難な面がある。そういった面も含めて、支援が必要ではないかと考えている。

・日頃から陸上競技に携わらせていただいているが、富山マラソンが今年、第3回目を迎えることになり、全国からたくさんのランナーが集まり、種目は違うが、大変嬉しく思っている。

今年から、昨年までのコースが変わり平坦なコースになり、より記録が出やすいコースになったが、登ったり降ったり、昨年までは頻繁なギャチェンジも必要であり、きついコースではあったが、立山がきれいに、より長く見ることができたコースで、きついけれども達成感が得られた昨年までのコースが富山らしいコースだったのではないかと惜しい気がしている。

また同じ長距離のことだが、全国都道府県女子駅伝が大変苦戦をしている。体育センターにも、中学生の選手が測定に来て、一所懸命、日々記録を伸ばすように頑張っているが、富山には残念ながら実業団で走るような選手がいない。そこが大きな穴となって、とても辛い成績になっている。

そんなことも絡めて、1つ検討していただきたいのは、2020年の東京オリンピック、この機会にトップ選手が富山県で、できるだけ拠点にして活動してもらい、できれば受け皿となってくれるような企業がたくさん現れるとよいと思う。

2000年の富山国体の時に、兵庫県から北本選手をお迎えし、富山を拠点にしてトレーニングされ、世界に挑んでいくその後ろ姿を見ていた子供たちが、今、インターハイや国体で活躍して、東京を目指して羽ばたこうとしている。そして、北本さんには、今でもご支援をいただいているというご縁が続いていることがある。

自国開催という貴重な機会を、あらゆる競技において、もっともっと盛り上がるように、JOCがやっているようなトップアスリート就職支援ナビゲーションというようなシステムを、富山バージョンとして作ってもらいたい。

身近でトップ選手がトレーニングをし、試合に挑んでいく姿を見る事は、富山の子供たちにとっても大きな財産になっていくので、検討をお願いしたい。

・昨年度のリオパラリンピックで、本県のボッチャ競技の藤井選手が銀メダル、また車椅子バスケの宮島選手が活躍され、本県の障害者も、スポーツをやってみたいと思う人がたくさん増えたと聞いている。

また、県の障害者スポーツ協会では、障害者スポーツの用具の貸し出しを行っているが、リオパラリンピック終了後、その貸し出しも大幅に増えたとスポーツ協会から聞いている。多くの障害者がスポーツに親しみ、生き生きと暮らせるように、障害者スポーツを盛り上げていきたい。

県においても、これまで以上に、支援をお願いしたい。また、藤井選手、宮島選手に刺激を受け、若手選手も育っている。車いすバスケットでは、2名の若手選手が、ジュニアの部で日本代表のメンバーに選ばれ、水泳競技では、知的障害部門の選手が全国大会で活躍している。

さらに、来年の冬季パラリンピックの候補選手として、スキー競技クロスカントリーで活躍している。この選手は、高校1年ながら、一般の高校総体や国体でも活躍しており、これら選手の、よりいっそうのご支援をよろしくをお願いしたい。

・たくさん話をしたいが、「未来のアスリート」に絞って話させていただく。予算を増額していただき、感謝している。これまで、12年、取り組んだ成果の評価だと考えており、今後も内容を充実させたいと考えている。

先ほど事務局から8ページで、東京オリンピックを目指す有望選手の紹介があった。少し話をさせていただくが、表の2段目の右側の選手は、「未来のアスリート」の6期生である。下の段の選手は、2期生である。さらに隣の選手は4期生で、下の段の選手は1期生である。

このように「未来のアスリート」の中から、オリンピックを目指す選手が育っている。さらにこの他にも、ホッケーやカヌーにおいて、もしかしたら日本代表選手になるという選手いるということで、私どもも喜んでいる。

成果が上がって喜んでいるが、ひとつ、お願いしたいことがある。「未来のアスリート発掘事業」は、小学5年生の中から、能力のある生徒を見つけて、このように全国や世界で活躍する選手として育成することがひとつであるが、1番大きな目標は、そこで育った選手が、将来、富山県のスポーツ界のリーダーとして、活躍する人材になることが最終の目標である。今ほど紹介した選手。今年、大学を卒業するが、既に、日本代表として海外で活躍している。

競技団体と県が協力して、企業チームを作っていた。選手の勧誘を関係者の皆さんと行ったが、そのチームは実業団として登録されていない。競技実績が上がっていないということで、残念なことに、隣の石川県の企業チームに就職した。

これは、残念なことである。こういうすばらしい選手を受け入れる体制を早めに作らなければならない。今回、ちょっと遅れたと反省をしている。少なくとも2020年オリンピックに出た選手が、富山県に帰ってこられる受け入れ態勢の準備を進めていただきたい。競技団体と関係者は、一生懸命進めているが、県当局のご配慮をお願いしたい。

## 知 事

最初にアドバイザーから、それぞれご懇切なるアドバイスをいただいたが、まず、聖火リレーについては、前にもお願いしたが、できれば全市町村を回りたい話があるので、多少、日を分けてもいいかどうか、いろいろな面で弾力化してもらえるかどうかなど、できれば弾力性がある形だと大変ありがたい。

ボッチャ競技に大変関心が高まっている話が、委員の皆様から出たが、せっかく目が出てきているので、ボッチャに限らず、東京オリパラをきっかけにしたスポーツ振興を、少し的を絞った形で、サポートすることを考えて活きたい。

それから、かなり先行してオリンピック関連の合宿で、努力している競技団体、自治体もある。アドバイスいただいたように、オリンピックに実際に出場する選手が決まるのは、直前にならざるをえないことが多いので、オリンピック出場候補チームを事前合宿にというお話は参考にさせていただきたい。

また、分散的にならずに、ある程度的を絞って合宿誘致をしたり、選手強化をしたりしたほうがいいのか、外部指導者を招く場合の、指導者の力量の見極めの問題、いろいろな貴重なご意見をいただき感謝申しあげる。

また、富山県も幸いスーパートレーナーに3年前に来ていただき、大変実績が上がってきている。こうした方の位置づけが明確になるように、今年度からしっかりと配慮した形にしている。

富山マラソンについて、富山らしいいいコースだったのに変更になったのは残念だという話があった。コースについては、実行委員会で議論していただき、今年は、再度見直すことは難しいので、今年の富山マラソンの実施状況も見て、しっかりと議論をしたい。交通渋滞の議論はあるが、東京マラソンも、都心のど真ん中を走っているわけで、事前の周知をしっかりとできれば、かなりの問題も解決すると思うので、こういった点もつめていきたい。

せっかくの有望な選手、「未来のアスリート」で育てた選手が、県内の企業・実業団の受け入れ態勢が、必ずしも整っていないので、みすみす県外に行ってしまうのが残念だという話があった。こうした点については、県内の民間の皆様とよく相談をしたい。県内には関心を持って力を入れているところも少なくないが、今話を関係の方々とは相談してまいりたい。



・同時通訳サービスについて説明させていただく。観光庁が行った外国人アンケートによると、訪日中で一番困ったことは、平成 26 年度では wi-fi 環境が整備されていないことが 1 位であった。平成 28 年度では、wi-fi 環境はかなり改善されており、1 位は施設等のスタッフとコミュニケーションが取れないことである。先日新聞報道によると、東京オリンピック・パラリンピックに向け、消防庁は「119 番通報」について民間の同時通訳サービスを全国 24 時間、5ヶ国語対応で行うと掲載されていた。この民間の同時通訳サービスは、さまざまなサービスがでている。私どもの機構でも取り扱っている「ミニ通訳」というサービスがあるが、スマートフォンやタブレットを使って、画面に映る通訳がお客様と施設職員の同時通訳を行いコミュニケーションするサービスである。例えば、5カ国語対応・1日11時間のコースで月額¥15,000と割と安く導入できる。また、他社のサービスでは画面を使わずに、回線を使用し、外国からの国際電話を、通訳を通じて、こちらの職員が受けるサービスも出てきている。比較的安い価格で同時通訳ができる時代になってきているので、誘致活動や、外国からお客様が来たときに、より温かいおもてなしサービスができるということを紹介させていただいた。

・先ほどアドバイザーの話聞いて、合宿誘致という点で、競技力向上や環境整備も含めて考えてみると、とにかく事前合宿を誘致するというのではなく、まず強化合宿を行ってもらい、次に事前合宿を誘致する流れを作ることが大事という風に思った。強化合宿を行う上で富山県の特徴を考えると、高地合宿が有利ではないか。富山空港を基点にして考えると、3時間くらいあれば標高 2200m から 2400m の環境から東京まで行けると思う。そういったことを売りにして、あるいは環境整備をアピールし、事前合宿となれば良い。

五輪では、広報は非常に制約を受ける。事前に富山県のスポーツ環境を PR し、機運を盛り上げるというロードマップ（目標達成までの大まかなスケジュールの全体像）も早めに作って、必要な予算の配分を考えていく時期に来ていると思う。

・これから 10 年後に高校生が 2000 人減るということで、高校の統合も視野にいれていると思うが、その県立高校の跡地を街中スタジアムに利用すればどうかと思う。

県外選手の流出については、大阪では私立高校の授業料を無償化したことで、府内の優秀な選手の流出が止まったとも聞いている。私学の無償化を検討していただければと考える。併せて県立高校の推薦入試枠を広げてみても面白いのではないか。高知県の明德義塾高校では、全校生徒 850 人のうち約 4 割、350 人が外国人で、そのうち 8 割が中国人である。少子化のひとつの解決策だと思う。

特別支援学校との交流では、昨年、富山第一高校サッカー部は、富山、高岡、しらとり の 3 つの総合支援学校と合同のサッカー教室を行った。生徒が中心となり、総合支援学校の生徒たちと一緒にプレーを楽しんだ。また（富山第一高校の生徒が）コーチとなり、サッカーを指導した。サッカーだけでなく、いろんな競技で健常者と障害者が一緒にスポー

ツを楽しめる交流の機会があれば良い。

・先ほど体協の専務から話があったが、未来のアスリート出身の有望なハンドボール選手を県内企業チームで獲得できず、責任を感じている。この後にも県内出身の有望なハンドボール選手がいるので、今後県内企業チームの実績を残していきながら獲得できる体制を作っていきたい。今年4月から日本リーグに参戦するが、練習環境の整備など県の配慮に感謝している。

チームを率いるものとして、先ほどスポーツドクターも話されたが、例えばトレーナーバンクや、スポーツドクター、スポーツ栄養に関するサポートなど、スポーツチームを支えていくソフトとして非常に重要であると感じている。マルチトレーナー事業やスーパートレーナー事業も活用させていただいているが大変有難い事業である。

合宿誘致について、合宿地を選ぶうえで、一つは体育施設であると思う。現在誘致している本県体育施設は磐石に整ってきていると思う。二つ目はアドバイザーも話されたが、宿泊施設の問題もとても重要になってくると思う。一番気を使うのは食事であるが、外国の選手たちだとフィットネスルームや練習場までの移動手段も懸念される条件だと思う。施設と宿舍の情報をパックにして広めていくなど、提案方法を考えないと中々注目してもらえないのではないかな。

・初回の会議でもお願いしたが、県内の全市町村を聖火リレーしていただくと、県民のスポーツへの関心が高まると思うのでご配慮願いたい。先ほどアドバイザーも話されたが、2018～2019年には具体的なルートが決まると聞いているので是非ご配慮願いたい。

応援プログラムを活用することによって、スポーツを通じて街づくりも企画できるのではないだろうか。市町村、関係団体との調整に一段のご配慮いただきたい。

・事前合宿について思っていることを話したい。アドバイザーから「オールジャパンの合宿を誘致するのは難しい」という話であった。私も同感である。そこで、高校生や大学生、実業団等の代表候補選手の合宿を富山で行えないものか。地元の選手も合宿に参加させていただくことで刺激を与えて強化を図る。2020年のオリンピックに向けて、それぞれの競技団体が地方で合宿することは、競技人口を増やす意味でも良い機会ではないか。高岡では2020年の春に新しい総合体育館が完成する。新しい体育館を使い、集大成として何かできないか市長と相談している。他国の団体チームの調整合宿を行うなど、一流のプレーを、競技をやっている子供たちに見せたい。高岡市体育協会に所属している競技団体の中で、他国チームの合宿支援が可能な団体に、体育協会も応援していく予定である。

・全国的に人口減といわれる中で、限られた予算の中で、いかに効果を出していくか考えると、集中化ということが、ある程度必要になってくるのではないかと考える。高校再編、

小学校再編、中学校再編が迫ってくることが予想される。小学校の時に、いかにして優秀な選手、可能性を持った人材を発掘し、中学校、高校へと連携を図り強化することで優秀なアスリートを育てていくことが重要になるのではないかと思う。

経済状況が厳しい昨今、単独企業でチームを維持していくことは非常に難しい。前にも話したかもしれないが、中小の企業や経済団体に声を掛け、富山県スポーツの振興のために基金を作ってバックアップできないものか。

・現在、子どものスポーツ離れや二極化が進む中で、スポーツの楽しさを伝えることや、スポーツを通して夢や希望を与えること、また、高齢化が進んでいく中で生涯を通してスポーツに親しむ環境を作っていくことが重要になっていくと思う。新事業である、オリンピックや日本代表選手などを招きスポーツ体験会を行うこと、また、県民の健康づくりを推進するウォーキングイベントの開催などは、是非いろいろな市町村で盛り上げていただきたいと思うし、私自身もオリンピックとして積極的に行事に参加していきたいと思った。

スポーツの環境整備という点で、小矢部市には市が管理しているホッケー場があるが、市の運営だけでは環境整備に限度がある。このホッケー場では毎年、高円宮杯の日本リーグが開催されている。また、県外から小学、中学、高校、大学が試合などに訪れ大変活用されている。このホッケー場の姉妹ホッケー場として県営のものも検討していただきたい。

アドバイザー

幅広くご意見をいただいたが、知事、委員の方から聖火リレーのご要望がありましたので、今後検討にあたり、しっかりと受け止めさせていただきたい。

アドバイザー

スポーツ教育は大変必要である。試合直前になってから、食事の取り方などを言っても駄目なので、日頃から栄養やトレーニング方法を、通常の練習の中で教育しておかないと意味が無い。学校スポーツが日本では基本となっている。運動部が学校教育からスタートしている。最近は少し傾向が変わり、クラブスポーツが学校スポーツから離れて多くなってきた。クラブスポーツで大会をやっているが、中学校や高校など学校区分の大会では無く、U-17など年代区分で行うことが多くなってきている。

また、心・技・体と良くいわれるが、最後の勝負を決定付けるのは精神的なものである。やる気、あきらめない気持ちなど勝負根性をしっかり教育することで、実力どおりの力やそれ以上の実力を出すことができる。そのためには、試合と平生の練習との差がないことが必要である。我々も世界で勝たせるために、そんな練習をさせている。

今までオリンピック種目は28種目であったが、2020東京オリンピックでは5種目追加さ

れ 33 種目になる予定である。野球も追加されることから、オリンピック出場有望選手に本県滑川高校出身の石川歩投手も是非加えていただきたい。追加される 5 種目の選手でも発掘すれば有望選手がいるのではないか。

日本を代表するチームは高地合宿の場所選定に困っている。レスリングチームは長野県で高地合宿を行っている。1500m以上ないと酸素が薄くならないため効果が期待できない。日本の陸上チームはスイスや中国に行き練習している。もし富山県で、1500m以上の高地で、宿泊、400mトラックや体育館等の練習環境を整備すれば、日本全ての競技団体のナショナルチームが呼べる。現在、高地トレーニングは岐阜県、山形県で行っている。私はナショナルトレーニングセンターのセンター長を 7 年務めたが、日本の室内競技全ての団体がナショナルトレーニングセンターで強化している。毎年、富山からは小学校 6 年生の未来のアスリート発掘事業の受講生たちが見学に来訪している施設である。ナショナルトレーニングセンター同様に、施設整備にお金は掛かるが、高地トレーニングの環境を整えば、多くの日本代表チームが富山を訪れるのではないかと考える。

#### 知事

熱心で貴重なご意見を賜り、感謝申しあげる。外国の方がスポーツに限らず多数来県するので、施設のスタッフとの意思の疎通の問題が大事である。スマートフォンやタブレットの利用や、リーズナブルな費用で対応する仕組みもあるようなので、検討していきたい。話は少しそれるが、日本橋とやま館に英語や中国語ができる職員を 2 名配置したところ、大変評判が良く、「あそこへ行けば（日本橋とやま館）話が通じる」ということで外国人が多く来館されており、本年 2 月 28 日はアンテナショップとして全国で初めてとなる「外国人観光案内所」に認定された。もっと多くのスタッフを配置することは中々難しいこともあり、先ほど紹介された仕組みを活用していくことも勉強していきたい。

アドバイザーが話された、高地トレーニング施設については、どれくらいの規模の施設なら選手や指導者のニーズにお答えできるのか、また、それなりの費用が掛かるとすれば、オリンピックが終われば全く使わないといった一過性のもではなく、その後の有効活用も含めて、どのような見通しになるのか、(アドバイザーに)お話を聞かせていただきたい。

何人かの委員から街中スタジアムのお話がでたが、今、高等学校の再編といった話も議論になっているので、その後の跡地の有効活用といった発言もあった。いろいろお考えで、改めて熱意を感じさせられた。29 年度予算説明の中に、「新たなスポーツ・文化等多目的施設のニーズ等調査」が挙げられているが、かねてより、スポーツ文化施設、全天候型施設等の要望がある。サッカー場を希望されている方や武道を考えておられる方、また、むしろコンサートも併せてできるような施設を望まれている方等、様々なご意見を聞いている半面、経済界でもいろんなご意見の方がおられ、今日も意見の中にあつたが、非常に人口減少時代で、また富山県は行政改革を行い、財政健全化を図っている。今後、国の財政も大変な中で、緊要度に応じた予算編成を考えると、慎重な意見も少なくない。そこで、県民

の皆様が本当にどれだけ必要と考えているか、私も多くの県民の皆様のご指示があるのなら前向きに考えてみたいという気持ちと、ようやく財政再建が実現してきている中で、県民の皆様が「無理するな」といったご意見ならば、行政の具体的な課題になりにくい。幅広い県民の皆様のご意見を幅広く聞いてみて、そのご意見を踏まえて、これからの新しい富山県の文化・スポーツの振興のいくつかの政策の大事な論点としていくために、一度調査してみたい。調査のプロセスを経て、結果を踏まえて、有識者の皆様のご意見を聞いて対応して行きたいと思う。

良い選手が他県に流出しているといったご意見もあったが、企業の皆さんとご相談してやっていきたいと思う。

アドバイザーが発言された、東京オリンピック・パラリンピックにおいて、5種目増えたことについては、新しい分野であるから取り組み方によっては効果が大きいといえる。県の予算でも、「2020 東京オリンピック選手育成事業」が挙げられている。併せて「東京オリンピックを目指すジュニアアスリート育成サポート事業」もある。特に、前段は新しい種目について、意欲のある、才能のある選手を精一杯応援したいという予算であるので、しっかりと取り組んでいきたい。

本日は、貴重なご意見を賜り感謝申しあげる。次年度の予算では、スポーツ関係は相当予算を付けてあるが、皆さんのご意見を踏まえて、スポーツ行政に取り組んで参りたい。

#### 4 事務連絡